

子どもを地域で育てるボランティア

「あおば学校支援ネットワーク(ASN)」

神奈川県横浜市青葉区で活動する「あおば学校支援ネットワーク(ASN)」は、学校支援のボランティアと学校をつなぐコーディネーターのネットワークだ。2005(平成17)年に青葉区役所が主催した「学校支援ボランティア・コーディネーター養成講座」の修了者有志が発足させた市民グループで、代表は、当初から竹本靖代さんが務める。

ASNの目的は、教育の多様化や地域との連携を目指す学校と、生涯学習や生きがいの観点から地域での活動を求めるボランティアをつなぎ、よりよい学校教育活動を支援すること。現在17人のコーディネーターが、毎年多くのボランティアとともに活動している。コーディネーターは高齢者が多く、ボランティアも半数以上が高齢者。男性はほとんどがリタイア組で、女性の方が年齢層に幅があるが、ほぼ3割を高齢者が占める。

「メンバーは教育への意識が高く、『子どもは学校と家庭と社会、その地域で育てるんだ』と発足当初からおっしゃっていました。80歳前後の別の高齢者の方は『教育に地域が関わらないといけない』と。まさにASNが目指すところです」と竹本さんは言う。

名前にもある通り、当初は学校支援という形でスタートしたASNだが、今では地域を巻き込み、「街づくりをしながらの学校支援」と活動の場を広げている。

高齢者のボランティアが関わる主な活動は、学校の授業や校外活動への支援、休日の体験活動、地域の活動の3つだ。

学校の授業や校外活動への支援では、ボランティアが教員のアシスタントを務める。授業中に、教科書の開くページが違っている子に教えたり、計算につまずいている子にアドバイスしたり。

毎月4月には、要望のあった学校の新1年生のクラスに、1か月集中して50人前後のボランティアが入る。生活支援・給食補助・学習支援などを行ううちに、子ども達とすっかり仲良くなり、「第二の先生」のように慕ってくる子どもも多いという。



■お話をうかがった竹本靖代代表

また遠足などの校外学習への同行なども行っている。

ASNでは、毎年新年度が始まる前に、学校別マニュアルを使ったボランティア向けの研修を実施。年に数回集まったの各学校の情報交換も行っている。

孫以下の年齢の初対面の子どもたちと接して、果たして教員のアシスタントが務まるの

だろうか心配になるが、「学校が欲しているのは教員ではないんです。子どもたちが多様な人たちとの関わりの中で成長することが一番大事。『おじいちゃんおばあちゃん世代の人を』と要請される学校もあります」と竹本さん。3世代同居が激減している現代において、人生経験豊富な高齢者に期待される役割は大きい。ボランティアが教室に入ることに始めは難色を示す先生もいるが、続けていくうちに、ほぼ間違いなく考え方が変わるという。

授業支援は、1時間目から4時間目まで滞在し教室内を歩き回るため、ある程度の体力が必要だ。自信がないという高齢者には、拘束時間の短い体験活動や、時間に融通がきく地域の活動に配置替えする。

休日の体験活動では、教室を借りて実験教室や工作教室を開く。割り箸を使ったグライダーを作って飛ばしたり、備長炭を利用した電池で電球を点けたり。理科好きの高齢者が出前授業をすることもある。高齢者が「昔とった杵柄」を最大限発揮できる時間だ。

地域の活動は、世代間交流や子どもたちの居場所づくりを目的に行われる。毎年開催されているお化け屋敷では、下は小学校3年生から上は80歳前後までが集まり、わいわいと準備をする。年齢に関係なく、ニックネームで呼び合い、女子大生の相談に高齢者が応える場面も。

デイキャンプではソーラークッカーやソーラーおもちゃをつ

